井原・田中美術館

歴史絵巻

会期中盤、

井原市井原町、市立田中美術館の特別展

巨匠らの華やかな歴史画に

を中心に、版画、彫刻など63点を展示。明治期以降、西洋文化に比肩する国民的叙事詩として再評価された平家物語の姿を浮き彫りにしている。

入場者は、源平合戦の華々しい武者姿や、乱世の安寧を祈る女性った物語の場面が多く描かれ、興味深く鑑賞できた」と話していた。

会期は31日まで。月曜休館。16日午後1時半から、東京文化財研究所の塩谷純氏による記念講演が井原市民会館（同所）である。聴講無料。（宗宮正行）

安保法案閣議決定

「不可欠」「間違い」

県関係議員 割れる意見

自衛隊の海外活動を大幅に広げる新たな安全保障関連法案が閣議決定された14日、県関係の与党議員は積極的平和主義の一環であることを強調した一方、野党議員は意見が分かれた。（1面関連）

自民党の加藤勝信官房副長官（衆院岡山5区）は「日本を取り巻く今の国際情勢を考えると、切れ目のない法制が不可欠。わが国と国際社会の平和と安全に寄与する法案」と必要性を訴えた。

同党の橋本岳氏（同4区）も「より積極的に平和貢献に取り組むための法案。国会で丁寧に審議する中で国民の理解を深め、納得してもらうことが大切」と述べた。

公明党政調副会長として与党協議会に参加した谷合正明氏（参院比例）は「党の主張により、国際法上の正当性や国会関与、隊員の安全確保といった歯止めが盛り込まれた。憲法9条を堅持したものだ」と主張した。

これに対して野党では、民主党の江田五月最高顧問（参院岡山）が「将来に大きな間違いを犯すことになる」と批判。「平和主義の旗印である『集団的自衛権を行使せず』の大方針を変えたもの。国会、そして国民と一緒に止めていく」と対決姿勢を鮮明にした。

維新の党の高井崇志氏（衆院比例中国）は、集団的自衛権行使を原則容認する党の方針を踏まえながらも「重要法案であり、時間をかけて議論を尽くすべき」として、政府が目指す今国会での成立には反対した。

次世代の党の平沼赳夫党首（衆院岡山3区）は「安倍政権の方向性を支持する」と早期成立を求めた上で「領海警備などは不十分。国会審議で注文を付けたい」と話した。（苅田知弥、川中満仁）

「容認できない」

岡山弁護士会長声明

政府が閣議決定した安全保障関連法案に対し、岡山弁護士会（吉岡康祐会長）は反対する会長声明を出した。声明は13日付。安倍晋三首相や中谷元・防衛相、県選出国会議員に14日、郵送した。

声明では、要件を満たせば集団的自衛権の行使が可能となり、世界中で自衛隊が武力行使する道を開くことは「憲法9条の徹底した恒久平和主義に反し、到底容認できない」と指摘。閣議決定に至る手法や首相が今国会での法案成立を米国に約束した点についても「国民を完全に無視する態度で民主主義・国民主権に著しく違背する」と厳しく非難した。

また、法案は平和と安全とは名ばかりの戦争法案とし「国民の意思を直接問う憲法改正手続きを経ないまま、今国会で成立させるべきではない」と撤回を求めた。（岸研一）

党・無所属の会（旧政隆会）からの選出となった。過去4年間、議会の多数派として公明党議長を支えてきた同党市議団と保守系の新風会、民主・労組系のおかやま創政会、民主系などの市民ネットの4会派連合が4月の市議定数は今選挙から6減の46。最大会派の自民は改選前と同じ17人で相対的に勢力を拡大したのに対し、4会派側は3人減で半数の23人となった。議長ポストを得れば議決数は22で半数を割り、議会運営の安定を欠く。

結果的に4会派連合のうち、市民ネットを除く3会派が自民候補に投票。これまで続いてきた議会内の対立軸が解消され、比較的安定した議会運営が可能な体制になった。

とはいえ、国政で野